

町政座談会（布施地区）

日 時 令和6年2月4日（火）
18：30～20：00
場 所 布施公民館

1. 町長あいさつ

皆さん、こんばんは。座ったままさせてください。皆さんが座っておられる前に立つと、すごく上からで。足も楽にしてください。何かお願いがしたくて、こちらが正座しているわけじゃなくて、正座していた方が楽だったり、崩したときが楽だったりするので、皆さんも楽にしてください。

町政座談会をこうやって開催しましたところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。町長に就任しまして、毎年度、町政座談会をしたいということで、いろいろ調整していただきましたら、どうしてもこの時期になって、非常に寒い時で申し訳ないけど、何とかできればと思いました。今日こうやって寒い中でも集まっていたいただきました。ありがとうございました。

今日、9カ所目で、今週やれば全部終わると思っていたんですが、私自身あんまり天気恵まれないというか、雨男というか。これで終わるとかいろいろなことを思うと、天気が崩れるんですが、案の定、明日の田所は延期させてもらおうかと思っています。皆さんにとっても、今日やって、田所が延期したぶんが2月の18日になっていますので、今日、足りないぶんは、田所にまた来ていただいても全然構いませんので、チャンスが増えたと思っていただければと思います。

今まで町政座談会をやってきて、30分くらい話をさせていただいて、1時間くらいやりとりをするんですが、以外と皆さんは思いがあったり、こういう形でしゃべりやすかったりして、たくさんご意見をいただいたり、やり取りができるので、極力しゃべる時間を短くできればと思っています。

表紙のところの一番下に町長への手紙ということでQRコードを載せています。足りない部分があれば、これを読み取っていただければ、スマホでそのままメッセージを送ることができます。名前とかがなくても、受け取りますので、こういうもの使っていただければと思います。

町長に就任させていただきまして、バタバタとしながら過ごして、いつ来年度予算とか、いろいろな思いを形にするんだろうと思っています。議員の立場のときも、3月になれば議会があって、新年度予算が出るんですけど、事業内容がわかりにくかったり、何でかな？と思っていますが、いざ当事者になってみますと、国が予算をつくって、12月、1月くらいに示される。それから県が出てくる。そういうものを受けながら町がやると、どうしても議論して、2月19日くらいには、3月議会の議運が始まるので、それまでというのと、どこで煮詰めるんだろうと。森田補佐がおられて、今日も一日話をしていましたが、今、町長査定ということで財政を見ていますが、制度設計をきちんとして皆さんのために新年度になったらすぐに事業ができれば一番いいんですが、難しいところがあるなと思っています。

ただ、私自身もそうですし、職員の皆さんにもお願いしていますが、まず今年度の事業をきちんと仕上げて、今の間に来年度の事業についてもしっかり考えて、4月になったら、議会で認めていただいた予算を皆さんのためにすぐに使えるように

できればと思っています。非常に時間がなくて厳しい中ですが、しっかり議論して進められればと思っています。

2枚目に今後取り組みたいことをたくさん書いています。その前に、ここに行き着くまでの思いをしゃべらせてください。財政については、再建という厳しい表現を使っています。何となく、大型事業も続いているし、人口も減ってくるので、大変だろうなと皆さんにはそういう思いを持っていただいていると思いますが、その大変さをどうやって伝えればいいのか、大変だということだけが伝わっていくと、生活に身近なことを何もしてもらえなくなってくるとか、若い人にとっては、この町にいても何もしてもらえないとか、ちょっと大変さの理解が、財政を何で再建するのか、改革しないといけないか、改善しないといけないか正しく伝わっていないと思っています。

今までどおり、皆さんにサービスを続けるために、また新しいことをする財源を捻出するためにも、まず今の状況を見直さなければいけない。皆さんのお家と一緒に出ていく分は増えていく、それは物価が上がるとか、買い物をしても高くなったなと思われるんだと思います。入るものがすぐ増えるわけじゃないということは、やり繰りをしないと、新しいことはできない。そういう意味で、人件費が上がるといっても、すべて皆さんにお願いするんじゃないくて、やり繰りの中で努力して得られたものをまた皆さんに還せればと思っています。

ちょっと理想は高いんですが、予算を組みながら本当に厳しいなと。それは、過去の道の駅を建てたどうこうという部分もありますが、それはそれで、きちんと見直しをつけて建てましたが、年数がかかったので、どうしても物価上昇の部分もありますし、これからの維持費というところもあります。いろいろな意味で、常にやり繰りを考えながらやっていかなければいけないかなと思っています。

何点かちょっと思いもあるんですが、よくあちこちでやってきて、農業関係とか耕作放棄地とか、山の話が出ます。鳥獣害も含めてそうですが、今年は米の値段も高く野菜の値段も高いので、もう少し、皆さんに意欲が出てやりたいんだけどということがあって、応援できればと思ったんですが、なかなか意欲が見られないかんじです。それほど地域が疲弊していたり、皆さんが年を取られたりという方が多いのかなと思います。

道の駅も新しくなって、どちらかというところ、新たに何かを出そうという思いをもっていたらいいんですが、なかなかそこにつながらないので。いいチャンスなので、生産意欲だとか、加工だとか何かをつくって売ろうというところにつながれば、生きがいという部分もあるので、何か応援ができないかな。どういう形がいいのかなというところを今、考えているところです。

もう一点ほど、どこに行っても同じ話なんですが、人手不足というのは大きな課題です。福祉事業所でもそうですし、進出企業でもそうです。定住対策で企業誘致をした方がいいという話もあるんですが、そういうチャンスがないわけではないです。ただ、企業を呼んできても、働いてもらえる人がいないのが現実で、地元でも人手が足りないということは、まずはそこを何とかしないとけない。外国人労働者という話もたくさん出ています。来られた人をどうやってサポートするかという課題もあります。

矢上高校の卒業生と石見養護学校の卒業生、特に矢上高校は、町もすごく支援をして、定員を満たすために町外や県外からも生徒さんが来られていますが、そのままだ部分が地元ということになるので。せっかく邑南町に来ていただいたので、

大学や専門学校を出た後に、邑南町に就職してもらえないか。もしくは高校を出てすぐ邑南町で働くという道があってもいいのかなと思っています。邑南町で働いて暮らしながら、それをしっかりサポートする。学ぶ意欲があれば、それを支えていくということも。今は会社でも、うちの会社に勤めれば、こういうキャリアアップできます、経験が積めますというのを示していますので、町としてもそういう仕組みがあってもいいのかなと。

子育て応援ということでやってきましたが、高校生までの子育てはすごく負担が少なくなっているけど、どうしても進学率が高まれば、外に大学や専門学校に送るとするのは親としては非常に大変なので、全てがそれでいいのか。選択肢として地元に残って、そういう中で、地域に支えられながら暮らしていく、キャリアアップしていくという仕組みがあってもいいのかなと思っています。それは、子育て支援の負担軽減もあるし、地域の人材確保というか。出さないという言い方がいいかどうかはありますが、考え方として必要なのかなと思っています。

今後、取り組んでいくことということで、たくさん書いています。今回、公民館単位で座談会をさせていただいています。私にとっても良かったなと思うのは、一つは、それぞれの地域で集まりやすかったかなと思います。もう一つは、同じテーマでも公民館ごと、地域ごとの思いの違いがはっきりよくわかる。瑞穂でとやってしまえば、具体的に言えば、例えば小中学校の統廃合に対する考え方で、すみません、布施は小学校も中学校も学校がない地域。小学校はあるけれどというところ、全部温度差というか考え方がすごく違って、やはり皆さんの声を聞くという意味では、公民館単位でお話を聞くのはいいことかなと思います。

小中学校の統廃合も書いています。財政についても、人口についても、小中学校の統廃合も、もっと数字を出して示してほしいとか、財政だけで説明会をしてほしいという話もありました。今回もそういうことをしようかなと思いましたが、あまり数字を出すと結論が一つになってしまう。

具体的に言いますと、小中学校についても今の小学生は1学年が70人です。保育所になると、1学年が50人です。去年、今年に生まれているお子さんは40人です。そうすると、おのずと中学校一つでいいよねという議論になるので。決して数合わせで、小中学校の統廃合をしたいわけじゃない。教育の在り方として、どうなのか。地域なり、地区としてどうなのかということがあるので、あまり数字は出していませんが、非常に様々な面で厳しいところはあります。施設がたくさんあるのをどう維持するかも含めてではあります。決してお金がないから統廃合という意味ではなくて、現実的な面で教育の在り方がどうあるべきかということです。

産業振興についても、以前から農業振興ということと、丸の下の方になるんですが、基本的にいい農地と悪い農地ではないけど、いい場所と悪い場所という言い方も変ですけど、区別せずに全てを残していきたいと思っています。特に、里山周辺部は鳥獣害もあって、そこは不便だから大変だからということはあるんですが、それをじゃあ、辞めましょうとなると、どんどん中心部まで山が迫ってきて、できる農地が少なくなる、鳥獣害の被害が広がってくるということになって、すみません、大変だと思いますが、何らかの形で周辺林地の管理を含めて、住環境も含めて総合的な対策ができればと思っています。

その他にもいろいろ書いてありますが、またお話をしながらできればと思います。その他のところに書いていますが、もう一つ、町長になって何とかしたいという思いは、いろいろな課題がそれぞれの課だけではできない。人口問題もそうですし、

教育の問題もそうです。住むことについても、自分の仕事が地域の課題でどこに結びついているのか、皆でやればよくなるんじゃないかとか、総合的な問題に対応していくかという意味で、職員の方にも幅広く、人の仕事も地域のこともそうですし、知ってほしいという思いがあります。

そういう意味で、その他のところですが、職員の副業を書いています。地域にもっと関心をもっていただきたいです。その前提で、公務員が副業をしてはいけないというわけではない。きちんと許可を受けてできる範囲であれば、やってもいいことになっています。お金をいただくかなければ、地域の行事なりサポートをすることは何ら問題ないと思います。地域に関心をもっていただければ、役場の中の他の人の仕事にも関心をもってもらえるんだと思います。そうすると、自分の仕事をしながら、誰と一緒にすれば、この問題が解決できるのか。皆でもっと考えられるかなと思っています。そういう意味で職員の副業という制度をつくるなり、今の制度の中でできるか、もっと良くなるというのを考えたいと思っています。

もう一つは、定期的な住民の会の開催と書いています。今回こうやって開催させていただきました。また、財政だけでという話も昨日されました。一緒に考える場としてテーマを絞るのもいいかもしれませんが、女性とか仕事とかで分けるのもいいかなと思っています。町としては一緒に考えたいです。意見を聞かせてくださいというのが、一つあります。

もう一つは、いろいろな会を開くことによって、普段出てこられない人とか、見かけない人もこういう会に出ていただいて、一緒に何かをしたいという思いがあります。人材発掘というのは大げさですが、町としてもいろいろなご相談をしたいけど人がわからない。地域の人に紹介していただいても、町としても、こういう会に出ておられれば、「あの会のどこどこに座っておられた人だよ」と言われると、次に頼んでみようかという話が始まるので。ありがたいことに、この町政座談会も比較的、参加者が多いです。何に比較してかということ変ですか、以前をあまり知らないのです。間違いなく町議会の意見交換会よりは多いです。それほど関心をもっていただいたりとか、時期が寒い時期だったんですけど、よかったのかなと、家におられる時間も長い時なのでという思いもあります。工夫をしながら、たくさんの方に出ていただければと思います。

まずは非常に簡単で、話し足りない部分もありますが、こちらからの話とさせていただいて、この後、教育長が少ししゃべられて意見交換のやりとりに少し時間を取らせてもらえればと思います。よろしくお願いします。ありがとうございます。

2. 教育長あいさつ

改めまして、こんばんは。教育委員会の大橋と申します。よろしくお願いいたします。まずもって、小学校、中学校のいろいろな活動に際しまして、本当にご支援をいただいております。特に、学校完結型の教育を目指しているわけではございません。地域と共にとこのを学校としても全面に出していきながら活動させていただいております。本当にありがとうございます。併せて、公民館活動も同様でございます。いろいろな行事にも協力もいただいております。改めまして、お礼を申し上げます。

私の方から一点、お手元にカラー刷りのプリントを用意させていただきました。全面印刷がしてある方を上にご覧ください。今日お伝えしたいのは、コミュニ

ティスクールとは、一体何かというところをご説明申し上げたいと思います。

まずは、スケジュール感ですが、令和7年度の来年一年をかけて、いろいろ協議させていただきながら、熟議も重ねて、令和8年度の制度設計を目指していきたいと思っております。まず、これはどういうものかといったら、左中ほどに、コミュニティスクールとは学校運営協議会を導入した学校と謳っております。

では、この学校運営協議会というのは一体何かということですか。邑南町は、いろいろな意味で、学校と地域との関係性は良好であると私は感じております。もちろん、それはしっかりとベースになって、現在のところは、学校または校長先生のお考えを地域がしっかりと汲んでいただいて、いろいろな体験活動などに、協力あるいはアイデアを出していただいて、子どもたちのために支援いただいているという関係性でございます。そういった関係の中で、将来にわたってしっかりと制度設計をした上でつないでいこうということで、今までの活動を少しより充実させたものになりたいというのが運営協議会と思っております。

右の方の四角囲みの一番上です。この協議会になったときの一番の目玉といえますか、大事なところは、学校の経営方針、運営方針を地域の皆様が承認していくという、承認の場が新たに出てきます。今までは、お願いされて協力体制を組んでいた形から、まずもって学校が進むべき姿を地域が認める。ということは、もうここで学校と地域が同等の立場でお互いに思いを持ちながら、子どもたちを育てていくというすっきりとした体制ができるというのが一番大きなことでございます。これが協議会の一番大きな役割だと思っております。

そのページの一番下です。では邑南町がというように書かせていただきましたが、少し時間が空きましたが、地域学校でも協力をいただきました。また、300人委員会、1000人委員会等の開催もさせていただいて、地域の思いをしっかりと明確にした上で、学校にもそれを伝えて参りました。そういった中での関係性がベースにあって、この協議会を充実させていこうというのが大きなねらいでございます。

裏面を見ていただければと思います。左に、導入した時のメリットを2つ書いています。まず、上の方ですが、これは学校から見たメリットです。つまり、学校は地域と共にある学校づくりを目指していくという一つの宣言だと思っております。これは文科省が示しております学習指導要領の中に社会に開かれた教育課程というのが明確に謳われております。先ほども申しましたけれども、学校完結型の教育ではないということで、学校にとってのメリット。

併せて、下の四角囲みは、今度は学校を核とした地域づくりということで、地域にとってもメリットがありますよということを示させていただいております。お互いにウィンウィンの関係で、この協議会、コミュニティスクールがスムーズに運営されるように来年度一年をかけて、いろいろ協議させていただきながら、先ほども町長が申しましたが、各地域に応じた特色あるコミュニティスクールを起ち上げていきたと思っております。

いろいろな場面、学習の場面も提供させていただきますので、その際はいろいろと意見をおっしゃっていただいて、より確実なものをつくり上げていきたいとおもっておりますので、来年度一年間、よろしく願いいたします。以上です。

3. 意見交換

大賀総務課長 ありがとうございます。それでは、続いて意見交換を進めて参り

ます。皆さんからご意見、ご質問をいただきたいと思います。手を挙げていただきますと、マイクをお持ちしますので、申し訳ありません。後ほどこの場の意見交換も会議録をつくって公開したいと思いますので、すみませんがマイクを使っただけいただきますようお願いいたします。その際は、一回のご発言で一つずつお願いできたらと思います。皆さんから一人でも多く、ご意見ご質問を頂戴したいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、どなたからでも構いません、よろしくお願いたします。

〇〇です。お世話になります。いろいろと勉強してきたんですけど、町長が出された町政に関する6つの重点項目、議会でも所信を公表されて、いろいろとあるんですが、その中に一つないのが、地域振興というのがないんです。

これって何かいろいろあるのかなと。というのは、16年に合併して、合併する前からこの布施地域は夢づくりプランで一つの地域計画をつくって、それから今度は24年に地域再生事業、それから地区戦の実現、発展事業、20年間かけて、ずっときて、それなりのものがある程度はできておるんです。これも住民に浸透はしつつあると。それで、大屋町長は地域振興がないというのは、これだけ静粛しているのかなと、その辺を最初からお聞きしたいと思います。

大屋町長 ありがとうございます。確かにふれていないです。特に、意味があるわけじゃなくて、中村議員さんからの一般質問もあったり、その前にもいろいろ話をしたりする中で、基本的に今は、作野先生がつくられた地域コミュニティの再編や計画があって、もう大きな流れができていて、その中で動いていると思っているので、あえて変える必要もないですし、応援していくその流れの中に乗っているという思いがあったので、あまりふれていないというところです。

関心がないとか、そういうわけではないです。一般質問も過去にふれたことがなくて、得手不得手で言うと、ちょっと苦手かなというのはありますが。12月議会でも中村議員さんからそういう質問があったりする中で、理解しながら地域の活動はしっかりと応援していきたいという姿勢に変わりはないです。

これは、とりあえずこの一問だけなんですけど、大きな流れができていているということは、この事業、地域づくりに関する事業がここまでで一つ終えて、この前、作野先生が出した地域コミュニティの検討会、今は地域運営組織をいかに地域がということで、井原は自治会をつくって地域運営組織に臨もうという心構えが今できていて、そこをあと11地区がどうかというところがあるんでしょうが。

そういうものは地域運営組織ってものすごく大きなもので、そこそそすぐに取りかかるより、いろいろな意見交換が必要なんですけど。大屋町政の中で、地域づくりに関わる事業は、こういうものを持ってこようとかいうのがあるのかなと。これは後で質問させてもらおうかと、そういうところがございます。

大屋町長 ありがとうございます。地域のことは、まず地域でというはなしと、石見と瑞穂と羽須美で自治会や組織の成り立ちの歴史が違うのと、いろいろと話をしてみると、運営の会費の負担にしてもそれぞれに違う。ということで、まず一律ではやりにくいという話と、逃げるわけじゃないですが、それぞれの事情に応じてということ。

今回も、それぞれの地区でいろいろ話が出ました。ある程度自治会が合併して次に進むところと、最初から、出羽やここもそうです。自治会と公民館単位が一緒のところもあって、まず相談窓口をきんとして、それぞれの事情に応じて相談を受けながら、一番いい方法を考えていかないといけないかなと。敢えてこうし

ますというのは難しいかなと思っていますし。町が示した今までの方式でも現実的にはちょっと難しい。何がどうか、それぞれ違うので、相談も受けています。そう思うと個別対応で、ある程度人が揃っていると人件費かもしれないし、まずそこにいかないところは人を育てるところからかもしれないので、それぞれの実情に応じて、最適なものを相談しながらきちんと提示できればと思っています。

一方で、町がこっちの方向に行ってくださいというものでもない。それぞれの地域のやり方があるので、どういう方向でも対応できるように、思いにも応援できるようにという思いはあります。

ありがとうございます。また他の方もいるみたいですから、ここまでお渡しします。

大賀総務課長 はい、ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

〇〇です。一点、この地区はタクシーの補助券をもらって、利用する地区になっておるんですが、もっと利用の仕方に柔軟な対応をしてもらえないかと思っております。

私は、80代の方と60代の方から意見を聞きまして、80代の方は、怪我をされて運転ができないので、タクシー利用券を申請に行ったら、免許の返納をしないと利用券をもらうことができないと。また治ったら、自分は運転したいので、結局それを利用させてもらうことができなかったと話をされて、ああそうなんだと。

それと、もう一つ、60歳代の方は、事情があって軽自動車を手放されたんです。それで、交通手段がないので、タクシー利用券をいただきに行ったら、免許証を返納しないとあげられないということで、60代の方が免許証を返納されている実態があります。また自動車を持たれたときに、再度、自動車学校に行って20万円から30万円近く払わないといけないので、それはもう少し利用券にあたっては考えるべきところがあるんじゃないかと、お二人の話を聞きましてつくづく思いましたので、ご配慮願えればと思います。以上です。

大屋町長 様子を調べて考えさせてください。お話の意味はよくわかりました。家族もいなくて怪我をして一時的に車に乗れないとか、何らかの事情で免許は持っているけど、例えば車がない場合とか、利用できてもいいんじゃないかという話ですよ。ちょっと、そこに柔軟な対応がどこまでできるのか。意味はすごくよくわかったので。

本来の目的はそういう車が運転できないとか、移動できないという方をサポートするのが目的なので、一時的にそういう事情になった人をどうするかということだと思います。ちょっと、担当課に状況を調べて、現状などいろいろ考えさせてください。ありがとうございます。

大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

布施2集落の〇〇です。誰も言いんさんから、ちょっと言わせてもらおうかと思うんですが。今、町長さん並びに教育長さんから、コミュニティスクール、学校運営協議会制度でしょうか、広報にもそのことが掲載してありまして、感心を持って読ませていただきました。

かつて、そういう制度ではないですが、町が児童クラブを設置したり、あるいは高原小学校なら瑞穂は瑞穂で、教員の経験があるないは別として、そういう関心を持っている人たちに委託されて学校評価委員会ですか。そういうもので私も校長さんと意見を交換させてもらったことがあります。そういうところから、学

校だけではなくて、地域、保護者、三者連合の教育づくりをしないといかんと
いうことで、大賛成だったんです。その発展で、合併する前の瑞穂町は、公民館を
主体として社会教育ですね、その中でいろいろな地域の子どもたちとか、大事に
して育てる雰囲気というか、公民館活動としてもありました。その発展として、
今、こういう形で新しい町長さんになられて、ちょうどいいと思われたん
だと思いますが、それをもっと深めていきたいということだと思います。

それで、広報では、学校関係者とそれからその地域の知識者というか、そうい
う方とか、民生児童委員とか、そういう奉仕活動に関わった人たちとの委員会を
つくって協議したいというようなことが書いてあったと思いますが、それもす
ごく大事だと思います。どういう形態で今後スケジュールをつくって、どうい
うメンバー構成でやっていかれるんだろうかと。

それで、学校長、学校関係者ですね、あるいは知識者とか、そういう民生児童
委員とか、その辺りのメンバー等というように書いてありますが、その「等」に
あたるところがどのあたりまでいくのか。それで、地域によって違うんですね。
羽須美と瑞穂と石見とでは。地勢的にも違うし、風土も違うし、そういうときに、
合併前の地域の関係とか、どんな形を考えられて、今後それをこの邑南町の学校
運営協議会制度ですか、そういう形にもっていかれようとしているのかという
ことに関心をもっていますので。

それで、特定の学校の先生とか、専門的な方が中心ばかりではなく、これから
人口がどんどん減っていくし、邑南町をどう引っ張って未来に育てていくのかと
いうときに、8千人くらいの地域になるという時代に、どういう形で、そこへ持
っていかれようとしているのかという、その構想みたいなものがあればお聞きし
たいと思います。いや、これからだというなら、そういうご意見があるなら、そ
の辺も考えさせてもらうというようなことだろうと思いますが、お考えがありま
したら、町長さん、教育長さんに伺ってみたいと思います。

大橋教育長 ありがとうございます。本当に今から熟議を重ねていこうと思っ
ておりますけど、まず委員構成につきましてご質問いただきました。基本的には、
各地域でどなたを入れていくかというのは、お任せしていきたいと思ってお
ります。ベースにある一番は、学校と共に地域と共にということで、学校と地域が対
等の立場で、子どもを中心に据えていただきたい。そうした時には、やはり当事
者意識、あて職がいけないというわけではないですけど、そういった思いの持
った方々にしっかり入っていただきたいと思っておりますので。これは一年をかけ
て各地域で議論いただければと思っておりますし。

もう一点、このコミュニティスクールを立ち上げた先には一体、という構想で
すが、邑南町としてはまずもって、小学校中学校の接続をしっかり意識してい
きたいという思いがございます。9年間で、義務教育最終の中学校3年生に、ど
んな力をつけていくのかというのが、一つ大きなポイントになるかと思ってお
ります。先ほど説明はしませんでしたけど、その協議会の一番大きなくくりとしては中
学校区で、小中の関係者に集まっていたら、9年間でどうしていくのかとい
うのを中心に議論いただきたいと。それが接続も含めて、地域の思いが伝わ
っていくのかなと今のところ、そう考えておりますので、そこを目指して一年かけて
いきたいと思っております。以上でございます。

大屋町長 私が町長になって、新たに始めるわけじゃなくて、先ほどの地域づく
りもそうですし、教育もそうですけど、いい流れと大きな流れは変える必要はな

いと思っています。

○さんがおっしゃったとおり、元々それぞれの地域なり、旧町村と町の中での思いがありながら、地域と学校が関わってきたので、その形を法律に基づいて、地域の権限が少し強くなるんですが、その代わり、思いが伝わるという話もされましたが、学校長が代わっても、地域の思いが常に伝わる。いい面は残していけるということなので、制度化したいということで議員のときから一般質問でどうですかと提案していて、教育長が2年くらい前に3月議会で表明されて準備をされてきていることです。

少しそれぞれの役割身分が地域の方はしっかりしてくるところがあります。大きく今までと変わるわけじゃなくて、それが制度化して皆さんの思いもしっかり伝わるという、いい制度だと思うので、町としても応援しながら、この仕組みが取り入れられればと思っています。

ちょっと雑談です。高校はすでに、ほぼこういう形になってきています。今度は小学校、中学校ということで。どこも地域と関わりながら、学校で学ぶというのが、受験勉強が変わってきているので、やはり地域の方にお世話になりながら、いろいろな学び、地域のこと知りながら関心を持ちながら学んでいかないと、これからは高校も入試が変わってきているので、社会が求める能力が変わってきているということで、今の時代に合った人たちを育てるという意味でも、地域の皆さんの力を借りたいということで、こういう制度を取り入れさせていただければと思っています。よろしくお願いします。

大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

八色石の ○でございます。先ほどのコミュニティスクールに関連して質問と、思いをお話させてもらえたらと思っています。まず、質問ですけれども、中学校単位で学校運営協議会の設置と3ページに示してあります。以前も、教育長さんにも立ち話でお話させてもらっていて、小学校単位の方が実働的にスタートしやすいだろうと。つまり、ここでも地域学校ということで取り組んでおりますけれども、そのあたりは小学校とつながっていくのに、非常にパイプが強いと思っていますので、その辺り、実働的にスタートするのがいいんじゃないかなと思っています。質問として、それをどうお考えか聞かせていただければと思います。

大橋教育長 ありがとうございます。全国的に見たときには、小学校単位でのコミュニティスクールが、感覚ですが多いだろうと思っています。

一方で、これからまだまだ研究していかないとはいえないと思いますが、ふるさと教育の見直しも併せて、今、検討させていただいております。先ほど町長も申しましたけれども、高校はすでにこのような仕組みを取り入れております。小学校、中学校、ひょっとしたら保育所等でも、自慢できる学びの場は邑南町にございますので、それを一つの串に刺した状態で送り出していくことが一番いいなど、そういった構想でふるさと教育の見直しを図っております。

コミュニティスクールは中学校区と申し上げましたけど、小学校も同じ土俵の中で、ある場面では小学校の校長先生のお考えを小学校の関係者で承認いただかないといけないというところで、若干、その線引きがどうなっていくのかというもの楽しみにはしているわけですけど、あくまで9年間を意識してやりたいというのが一番でございます。その中で、小学校をどうしていくのかというのを、来年度一年をかけて、いろいろなお知恵をいただければと思っています。以上で

す。

大賀総務課長 はい、どうぞ。

続いて意見を言ってもいいですか。

大賀総務課長 はい。

今年の二十歳を祝う式典がございました。そのときに、決意文を読まれた男性の方が、将来、教員になって邑南町に貢献したいとおっしゃった。非常にありがたいなと思って聞かせてもらいました。

町長のお考えのところも併せて、コミュニティスクールの良さとして、地域の将来を見据えた人材育成と書いてありますけども、やはり、これからの人口を考える上でも、将来の姿を考える上でも、端的に言うと地元の先生が地元の子どもを育てるというスタイルが何とかできないかなと思っております。以上です。

大屋町長 教育長も人事面でも、いろいろな面でそう思われると思います。私自身も、改めて思ったときに、自分が小学校、中学校、高校で学んだ先生はほとんどいなくて、その保育所の先生だけなんです。今、いろいろ振り返って思うと、やっぱり、そういう先生がいてくれると嬉しいという思いもあるんです。

そう思うと、地元の先生を育てないといけない中で、個人情報満載で話をしますと、実はうちの一番下が今度、先生になります。島根は落ちました。福岡は受けました。それで、やっぱりなかなか島根も競争率が。逆に都市部のすごく給料だとか、競争率も低いですし、すごく吸収力が高すぎて。島根も今、逆に困り込みを見しているんですけど、県外から帰ってくると、枠が狭くなっている。島大とか県立大の生徒さんは優先枠じゃなくてもあって。非常にもどかしさを感じています。

ただ、ある程度経つと、帰ってきやすいというのは島根の教員採用も、ちょっとびっくりしましたが、3月31日までに出して、面接だけで5月くらいにやる試験もあるので、いろいろな方式を紹介しながら、地元の先生がいるというのは非常にうれしいので。

今、高校とかいろいろな教育の中で、皆さんそう思って先生になるんだけど、都会に出るんだけど、帰って来られないという事情が非常にあるので、そこは。島根は石見枠もあるので、そういうのも見ながら、またいろいろ教えていただきながら、まずはターゲットを絞るのもいいかなと、今、話を聞いていて。

まず先生と言えば、奨学金も医療福祉とかもやっていますが、ただちょっと長くなってすみません。帰ってきて、実質5年間おれば償還免除になるんだけど、5年間だと短すぎるのかどうか。5年間経てばノルマを果たしたにもなるので、町がどういう応援をすると、この町にと思ってもらえるかも含めて、ちょっといろいろ考えさせてください。また相談させていただければと思います。ありがとうございます。

大橋教育長 ありがとうございます。ちょうど来年4月からの教職員人事の真っ只中でございます。詳しくはなかなか言えませんが、地元の先生にかなりお帰りいただいたと思っております。今、どうしても先生はブラックであると、非常に厳しいというイメージがついておりまして、働き方改革というふうに言われております。

教育委員会としては、まずもって人材育成も去ることながら、学校現場の厳しさを少しでも和らげていく、いろいろな施策も考えていかなければいけないと思っております。そういったイメージの払しょくも併せて、我々の業務としてやっ

ていかなければいけないと思っております。もちろん私もいろいろな手を尽くしながら、地元の先生を追っかけさせていただいておりますので、またいろいろお知恵をいただきながら。あるいは地域で先生を目指してみたらというようなお声がけもいただきながら、将来を見据えていきたいと思っております。ありがとうございました。

大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。 ○さん、いかがですか？

すみません、布施1集落の ○です。提案を一つしたいと思うんですが、その前に、エアコンがひと月、ふた月前まで壊れていて、直していただきました。大変ありがとうございます。私の持ち物ではないんですが、ありがとうございます。ついでに言えば、事務室の暖房も壊れておりますので、次の機会によろしく願います。まあ、私の持ち物ではないんですけど。

提案が一つです。私は長らく農業に関わってきておまして、農業関連の提案です。結論を言えば、2回目の大きな圃場整備に取り掛かるべきではないかという提案です。理由は、私は今、アグリサポートおおなんという合同会社に勤めておりますが、特に今回、中山間の直接支払いの切り替えになります、この3月、4月のところで。それで、これを境に法人経営が難しくなってきた、ちょうど今回が区切りなので、法人を閉鎖しようかというようなところも出てきております。

それで、瑞穂地域でいうと小林集落は、市木の方の個人の大型農家さんが入っておられました、おそらく3分の1から、半分近い面積をカバーしておられたはずなんです。その方はもう市木の方で手一杯なので、小林集落からは撤退すると。それで、小林集落にはもう跡継ぎのいる家はほとんどないので、しかも、他から入ろうと思っても、そういう希望者がいないという状況で、うちの会社にお願いに来られたんですが、うちの会社も手一杯持っていて、お断りをしたんです。それで、この4月から、7年度作がどうなるのか心配は心配なんです、他に手段がないので、お断りをさせてもらったということがあります。

ひょっとすると、そこは荒れていくのかもしれない。やっぱり今、特に千数百ヘクタールあるんでしょ、主にこれを維持していこうと思うと、稲作しかないですよ。例えば、園芸をやっても果樹をやっても、面積的には大きなものではないので、これだけの面積をカバーすると、やっぱり稲作をやるしかない。

それで、今の稲作は10アールでいうと、2万円程度しか所得が上がらないはずなんです。そうすると、若い人が専業で稲作農家になって、所得を4、5百万円でも稼ごうとすると、20ヘクタールくらいを一人でやらないとそれくらいの所得にならないということです。今のうちの形状で、20ヘクタールを一人でカバーできるかという、とても不可能です。

それで、前回の圃場整備が昭和40年代の後半から60年代くらいまでやったと思うんです。その頃は、機械化も少しずつ進み出して、鎌からバインダーに、手上から二帖、四帖の歩行型の田植え機に。ということで、その頃の圃場整備の形状でちょうどいいくらいの機会化が進んできたんだと思うんです。農地形状は、40、50年前のままで、機械だけどんどん性能が良くなってきて、しかも大型化していますので、今の形状には見合わない。

特に先ほど言いましたように一人で20ヘクタール経営しようとする、今のスマート農業機械、大型機械を導入してGPSや自動運転をフルに活用してやっ

と20ヘクタールできるかどうかだと思っんです。そうすると、例えば可能な限り、一区画を50アール程度に、急傾斜地でも何とか30アール程度にまとめて、のり面はどこかの端に追いやるといような方法を取るしかないと思っんです。

併せて、昔の圃場整備は、区画は区画、有害鳥獣は別の事業で有害鳥獣というように分かれていましたけど、今からは区画整理に合わせて有害鳥獣対策もやり、それから水管理も手でやらざるを得ないところもあるんでしょうが、かなり機会化できるものが出ておるようです。そこまでを含めて区画整理、圃場整備を行うことによって、一人の農家が4、5百万円の所得を得るようにする。そこまで持っていかないと、農業に従事する人はどんどんいなくなるばかりかなと思っます。

結論を言えば2回目の大規模な圃場整備をしましょう。これをやると、邑南町はたぶん30年くらいかかるんです。それを一気にやる必要はなくて、そういう条件不利を抱えているところからやる。例えば、瑞穂で言うと、元気館まわりは放っておいても入り手があるので、そういうところは後回しでもいいと思っんです。ないところから順繰りで、石見でもそういうところは端の方にはたくさんあると思っるので、そういうところから順番にやっていると、30年かかりでも将来、もうちょっと夢があるのかなと思っます。すみません、長話で。

大屋町長 ありがとうございます。最近、そういう話がたくさん出てきて、出てくるんだけど、小規模でも自己負担が2割、3割という事業はいっぱいあるんだけど。結局、儲かる儲からんと、土地に価値があるかないかということなので、昔みたいにまず自己負担は出してもらえない、できない。ましてや、自分の土地ならいいけど、預かっている土地や借りている土地とか、委託を受けている土地はできないので、自己負担のある圃場整備は難しいだろうと。

ただ、集約すればするほど、自己負担がなくなってくるので、集めて大規模にすれば自己負担が少なくてできるだろうと。じゃあ、誰が集めるの？という話になって、そこが今。この前に、福井県議もそういう話をしたり、今度は県の土地改良か何かで会議があるので、建設課長がその話をしてくださいという話があった。

それでさっき言われたとおり、本当に冗談話ですよ。例えば集約するのに、奥の方と言われたら、谷ごとの一番奥の、さっき言った一番不便なところを、ここ1ヘクタール、ここ1ヘクタールとやって、10ヘクタール集まったので、やってくれませんかというのは難しいんだけど。邑南町でいうと、どちらかというところ○さんの話もそういうことじゃないですか。本当にやれんところを集約しても、2反、3反しかないけど、それを集めて全部一気にするとか、ちょっと考え方を変わってもらわないとできないかなという思っちはあります。

あと、ちょっと雑談です。今ずっと農業に関わっていて、今、法人が10年くらい経って、中山間をきっかけに辞めるとあるじゃないですか。補助金も機械も何もかも長く農業をするような仕組みにはなっていない。最初はお金があるけど、更新するときにはない。結局、みんな10年くらいで辞めるといのは、そこなのかなということもあって、長くできる仕組みも考えなきゃいけないだろうし。

あとは、本当に相談と悩みですが、ほぼ悪魔の循環で、さっき言われたとおり、所得を上げようと思っると、圃場整備はしないといけない。機械も大きいものを買わないといけない。機械の大きいものを買っると、どんどん良くなるから、機械代がかかるから、また面積を増やさないといいけない。何かこう、悪魔の循環みたい

に、一人で作業をするために投資をした。その投資を回収するために面積を増やした。益々休みがなくなるから、もっといい機械がいる、みたいな。どこでというのもあるんですが、その辺も含めて、投資と収益のバランスとか、長くできる仕組みとか。

どちらにしても圃場整備は、土地がいっぱいあるのに、考え方で、さっき言われた、逆に機械でのり面ができるような仕組みでもいいし、畔を広くとるとか、あるんだと思います。つくってもらって収益を上げるということと、まず管理してもらえることに対して少し応援するというのもあると思うので、ちょっといろいろな面で、思っていますが。いつも言うんですが、これだけしゃべると副町長もおられるし、職員もおられるし、誰かがみんなで考えてくれるかなと思っていますが。地域として、これだけの課題があるので、さっき言われた区画を大きくして圃場整備をして有害鳥獣をセットでと言われたように、そういうことにみんなで知恵を出してできれば一番いいと思います。すぐにできる話ではないかもしれませんが、何となく、地域や皆さんの共通認識になりつつあるので、いい方向に進められればと思っています。ありがとうございます。

さっき言われた、谷で頑張って予算をつけてつくった田んぼが2枚で30アールしかなかったというような所はさすがにね、それはやれんと思うんですよ。切らざるを得ない所もあるので。

大屋町長 切っちゃうと、その下もダメになるという。ちょっとやり方はいろいろあるし、それは集約の仕方です。

早く取り組んでいただきたいと思います。生きているうちに。

大屋町長 今のでいうと、布施はこの辺はいいところなので後でもいいということですか？ではないですよ。

そりゃあね、担い手のないところ、土地がどうかよりも担い手のいなさそうなところからやらないと、外から入ってくる人がいない。

大屋町長 それと、個人の今までは集落営農でずっと来たので、個人の人を応援してこなかったのが、いざというときに行ってやってあげるよという人がいなくなってきたというののもあって、ちょっと集落営農とか個人であるとかも、ちょっとバランスを取りながら考えさせてください。ありがとうございます。

大賀総務課長 はい、ありがとうございます。他の方がいでしょうか。

質問は2回目ですけど。産業振興と財政再建の重点項目に入れておられて、その産業振興、医療福祉サービス充実で、雇用の確保だとか、資格を取らせるとか。それから町の社協のデイサービスとか、石見地区で今年度に閉鎖すると。それから、福祉法人だってマイナス経営とか。非常に大変なものがあるし、それから財政再建というか、財政規模69億円。それにプラス起債とか借金を払うためには、100億円。でも5年度は160億円くらいだと。かなり厳しいというのはこの数字から読み取れるのと、7年度は100数億円、結構な数字では払わないと、198億円と書いてあるんですよ。

それで、町の各職員には事業を見直しをかけておられますよね。これは守りだと思んですけど、守りばかりやっても職員は意気消沈しちゃうだろうから、逆に守りと攻めもやらないといけん。結構まだ8千人から9千人近くおられますよね。それに12公民館地区を生かして事業を進めていると。守りも必要だけど、攻めの事業もどんどん職員に働きかけながらとってきた方が。邑南町は結構ネームバリューがあって、いけると思うので。その辺はどうなんでしょうかね？今

の町長や教育長では。

それから今、小学校が8つあって、びっくりしたのが統合を2年間いろいろなことを考えて今後と言っておられました。それは何でかなと思ったら、市木が9人、それと日貫が。いわゆる特任の学校にしても、やっぱりそれ以外の所から子どもさんが来ても、やはり人数は増えないんだな、だからこれをというところに、8つをいくりにするかということもあるんでしょう。でも統合というのは、先ほど言っておられた教育の豊かさがという、いろいろな特徴があるので。でも地域にとっては、学校がなくなることによって衰退するのは確かなんですよ。その辺りも非常にコンビネーションを考えないと。さっき言ったコミュニティスクール、これも地元の思いを強くと言っておられましたよね。だから、そのかみ合わせが今後非常に難しい課題もあるでしょうし。

先ほどに戻りますが、攻め守り、この辺をちょっと聞かせていただきたいと思えます。以上です。

大屋町長 財政が厳しくて何とかやり繰りをして皆さんのためにと話をした中で、就任して最初に、職員さんや課長会議でも同じ話を何度かしたと思います。民間であれば、やり繰りをした、何か努力をした、利益が出たというのは、会社と株主さんと従業員さんのものみたくて。じゃあ、町がやり繰りをして、財源を何とかやり繰りする。もしくは、新たな財源を見い出したら、それは誰のためかと言ったら、職員の方にも話をしたんですが、給料として職員に返すことはできない。であれば、町民のために使うべきであって、自分で何をすると一番いいのか。今の仕事で、こういうことをするといいと思うとか、その皆さんの思いを形にしてもいいですと言っています。

それは、今度は町民としてその利益を受けてくださいという話をしています。なので、攻めの部分だと思いますし、明かな攻めは、今はちょっと財政が厳しい中で、ネームバリューと言われたように、もっとふるさと納税を努力しないといけないかなと思っています。企業版のふるさと納税もあります。ありがたいことに、町長の立場で、ふるさと会で広島や東京に行く。来られている方は会社を興された方もいますし、さまざまな勤めをされて、知り合いの多い方もおられます。アピールの場なので、そういう場でふるさと納税をお願いしたいですし、企業版では、企業は地域貢献だと意外と数十万円単位や百万円単位でいただけます。そう思うと、それぞれの知り合いとか、町が今まで関わった会社の方をお願いする、郵便を出すだけで、来ないかも知れないけど可能性はあるので、そういうところはすごく努力をしないといけないと思っています。

学校の統廃合を少しふれられました。人数ではないというところと、一方で施設の維持、お金かという部分もありますし、ちょっと最近強く感じているのは、それぞれの学校の大小ではなくて、今のお子さんたちを様々な形でサポートしようと思うと、予算も人も必要です。先ほど学校の先生の話もあったんですけど、この町にサポートする予算をつけたら、人が来ていただけるかと言ったら、人はいない。と思えば、やはり統廃合をしないと、それぞれのお子さんに合わせた良い教育やサポートが十分にできないんじゃないかという不安を持っています。さっき言われた学校と地域のこと、学校がなくなると地域が廃れるという話になると、布施がそういう経緯だったのかちょっとわからないですが、そういう認識もあったんですが。

現実に今、来年度以降の総合振興計画を立てる中で、人口とかを見た中で、必

ずしも学校があるなしと地域の人口が減るといのはリンクしていないです。日和は、日貫よりも人口は少ないですが、若い人の割合は若干高いとか。先ほど言われた、この地域としても学校の関わりもあるので、必ずしも地域振興と学校は別かなとちょっと思っています。

ただ、進める手続きとすれば、来年度、教育委員会にはより良い教育を提供するために学校はどうあるべきか。地域みらい課には、さっき言われた地域と学校の在り方、全く違う側面からいろいろな検討をしてくださいますと言っています。どれが、思いが正しいかどうかもありますし、統廃合と地域がどういう関わりになるかも調べながら進めていければと思います。答えになった部分と、ならない部分と、足りない部分があったら、また言ってください。

布施地区は、学校がなくなったのは昭和32年に、瑞穂町に合併して布施小が一部は変わって、それが高原に移ったというところで、その辺は十分に。学校は高原というものがあるから、庭にあるから学校がないから廃れるというより、逆に言ったらいいものがどんどん出来上がっているかなと私は思っています。

それともう一つ、すみません。地域おこし協力隊とありますよね。今、ホームページを見れば、20名近くの方がこの邑南町に入っられている。それで総務省の7年度の予算が、今度はもうちょっと所得がアップしてというように。それから、一人の人にもお金が上がるし、団体にもと。地方自治体がこれを受けるようになっていきますよね。だから逆に言ったら、20名だろうが何人だろうが、結構必要なところが出てくるんじゃないかと。

一つは、地域運営組織を12地区が動くとすれば、地域マネージャーというのが必ず必要に。その地域の人やればいいんですが、地域の人はいろいろなしがらみがあったり、動きがそれほど振るわないのかもしれない。だから逆に言ったら、今、地域マネージャーって各県にはいろいろあって、能力の高い方が結構、受けていますよね。それって今さっき言われた邑南町のネームバリューが結構あるので、強く打っていけばというところも。それは地域づくりをちょっとやってみて、そういうふうになりました。というところでしょうかね。

イノベーターが今日締め切りなんです。2名です。イノベーター自体は今、2人ほど入っておられるのかな。だから本当にイノベーターというのは非常に大切なポイントだと思うので、その辺はいろいろなことで進められたらいいかなというところで、ちょっと聞きました。

白須副町長 ありがとうございます。副町長の白須です。先ほど、〇〇さんが言われた地域マネージャーで、地域おこし協力隊が活用できないかというご意見でした。実は、さっき紹介してもらいましたが、地域イノベーターという形で募集をかけています。今、募集をかけている地域イノベーターというは、将来的には地域支援員、マネージャー、集落支援員なり、そういったところに将来的には就いてもらいたいという思いで、今、募集をかけております。

まだ応募があったかどうか確認していないんですが、そういった形でしっかりと地域おこし協力隊をつかって地域づくりの面でも人材を確保していこうと考えております。よろしく申し上げます。

大賀総務課長 ありがとうございます。はい、どうぞ。

大屋町長 若干、ご相談というか、いろいろ思いがあって。今、地域おこし協力隊は先ほど言われたとおり、月26万円くらい、年間で300万円くらいになります。昔に比べれば、100万円くらい上がっています。非常にいいんですけど、

地域おこし協力隊の方は、理想は3年経ったらこの町に残って、何らかの形で地域に貢献するなり、生活をしてほしいです。ただ、自力で地域おこし協力隊のときくらいお金を稼ぐのは非常に大変なので、ちょっと審査を厳しくさせてもらっています。先々、この町に残っていこうとか頑張っていこうという思いがあるかどうかを見ながら、この町で生きていけるかというところも思いながら。

ただ、町長自体はこういう面接に関わらないので、そういう思いの中で地域の人に見ていただいて、この人なら育てられる、支えられる、意欲があるというのも見えていただきながらやろうと思うので。応募があっても、若干いろいろな事情でお断りすることもあります。来ていただいたけど、合う合わないとか、3年経って、この町では生活できないと思われるなら、最初からお断りした方が本人のためかもしれないという思いもあって。それがまたどうかという皆さんの思いもあるので、そういう事情も汲みながら、いろいろな地域おこし協力隊の制度をどう使ったらいいかと、またいろいろ教えていただければと思います。ありがとうございます。

大賀総務課長 はい、他の方はいかがでしょうか。

布施1の〇〇といいます。ちょっと難しい質問でなくて申し訳ないんですけど、除雪の件でちょっとお聞きしたいんですけど。今、布施に1台、除雪機械があるんですけど、結構、脇道が多くてなかなかスムーズに除雪をしていただけないんです。それで、今、ここには布施の1と2があるんですけど、もう1台用意してもらって早く取ってもらえるような形には。

これは地域で協議するものなんでしょうか。町に質問するものなのかどうか、わからないんですけど、どうなんでしょう。

ただ、ボランティアで福祉のことをしていると、病院へ行ったり、買い物に行ったりするのに、除雪していなかったら車が入らなかつたりするので、どうかなと思って質問させていただきました。

大屋町長 ありがとうございます。話の雰囲気からすると、除雪車はあるけど、オペレーターは地元の人じゃなくて、他所の地域から来られるかんじですか？

おられますけど、思いは違うんだと。自分だけの順番があるって言ってたんで。支援をしなきゃいけない日がわかれば、そこを先に空けるかどうかということにもなると思うので。そこは地域と〇〇建設の管轄で動いているんでしょうけど。そこをつなげる人がほしいんですよ、そういうところに。

大屋町長 ありがとうございます。そういうご意見を聞きながら、正直なところ、もう一台用意するのは、リース代とかがすごくかかるのと、いつも予算の時にも言うんですけど、お金の問題は頑張れば何とかかなるけど、オペレーターとかやってただけの方が確保できるかどうかという問題は、別になってくるので。今はそちらの方で非常に苦労するので。地域と上手くつなげながら、曜日によってか、ルートを変えてもらえるかというのは、また建設課にも話をするので。早くしてくれとか、そういう話ではないので、利便性が高まるようにということなので。一日かかる中で、どこからという話したと思うので、そういう話なら相談できると思います。一度聞いてみます。ありがとうございます。

大賀総務課長 ありがとうございます。はい、どうぞ。

- 除雪の件ですが、今、八色石は県の除雪車が通った後、両サイドからものすごく雪ずりがして、ちょっとのことではできない感じで。昔は融雪ですぐ流してもらいよったんですが、高齢になってできないので。

そこで、八色石地域に今の除雪車を運転する資格を持った方がおられるので、これが簡単に利用できるなら、利用してすぐ取れば楽なんだが、どがあなんだろうか。どういう関係で利用したりすることができるんだろうかと言って聞かれたことがあるので。空いている時には利用できるのか、それとも全然利用できないのか、その辺りをちょっと教えてもらいたいです。

白須副町長 八色石に機械があるんですか。

○ いや、ここの機械を。

白須副町長 なるほど。ちょっと詳しくは確認してみないとわからないんですが、県道ということもありますし、それから、オペレーターで管理をさせていただいている方がいらっしゃるんです。ちょっとその辺は確認をして。そういった要望があったということ建設課に伝えておきますので。

大屋町長 それと、話の始まりは、県道なので県が除雪するんだけど、その後に空き家とかいろいろな家の雪がまた落ちてしまうんですね。ということもあるんですね。261でもそういう場所があったりして、矢上の町の中もあって、除雪した後に落ちたのは家の責任なのか、そのタイミングなのか。ちょっとその辺もあるんで、いろいろ相談させてもらったり、考えさせてください。事情はよくわかりました。ありがとうございます。

大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

大屋町長 些細なことでも、こうやって歩かせていただいて、さっきこのエアコンがという話も聞いたんですが、自分たちでは気づかなかったこと、外のことでもそうですし、こちらの立場になると見えるものが見えなくなったりするので。皆さん、些細なことでも、こんなことって言われることでも大事なことであったり。以外とその話が他にも出たりするので、どんなことでも結構なので、お話いただければと思います。

大賀総務課長 いかがでしょうか。

○ すみません、目が合ったもので。布施1集落の〇〇です。自治会の事務局をさせていただいております。今だんだん人が少なくなって、高齢化が進んでいくので、地域の組織の在り方というところで、自治会の中でもどうしたらより少ない人で必要な手立てを回していけるのか検討をしています。

片や、地区別戦略も今年度が最終年度ということで、今後に向けてどんなふうにも今まで頑張ってきたことを続けていこうかという検討に入っております。たぶん、近い将来になると思うんですが、地域運営組織の検討もしていけない時期がくると思っています。

この少ない人口の布施地区にとって、公民館は人が常時おられて、すごく頼りになる存在だと皆さんは認識しておられます。そういう頼りになる公民館が今後、地域運営組織を検討するときに、どういうスタンスなのか。あるいは、どういう役割を期待していったらいいのかというところは、何か検討がなされているものでしょうかというところを聞きたいです。

大屋町長 そういう話が少し出始めています。地域の運営組織と先ほど言われたように人を配置して地域のことをする人と、公民館の人がどう違うのか。そこにそれだけの人がいるのかと言ったら変ですが。公民館の人が地域をサポートしてもいいとは思いますが、公民館とはちょっとその辺りが一般的な見方と法律の違いがあったりするんですけど。地域のことは地域。公民館は社会教育としてということで、体制的には増える。ただ、無駄と思われるか、そこなんだと思いま

す。

もう一つは、公民館を統廃合しようという気は全くないです。当然、今のまま、それぞれの生い立ちがあるので、人数の多い少ないは関係ないと思っています。ただ、人員配置はちょっと考えなきゃいけないかなど。今までのように館長さんを除いて二人は、将来的には厳しくなるかなとは思いますが。それは、地域運営組織をつくっていただいたからいらなくなるだろうという意味ではなくて、それほど人員配置が町も難しくなってきたということで、別のこともあります。

大橋教育長 この後にコメントをするのは、なかなか難しいんですけども。教育委員会としましては、地域コミュニティの在り方という答申を町にいただきました。その中では、社会教育、人づくりという領域はとても大事であると。それを土壌にしていけないといけないというのは、共通認識です。建物の中に社会教育という機能は必ずや残していこうと。人づくりということは、必ずマンパワーが必要になって参ります。そういった意味での配置というのもありますし、今、町長が申しましたように、地域づくりという面でのマンパワーも必要であろうと。そういった中で、構成は今後、検討していけないといけないとは思っておりますけど、機能は必ず残していきたいという思いは強く持っているところです。

大屋町長 もう一点、思い出しましたという話ではないんですが、最初に〇〇さんにも言っていたんですが、地域コミュニティの在り方の中に、役場の組織の見直しというか窓口の一本化というのもあったと思います。それぞれの課で聞くんじゃなくて、どこかに聞けば地域のことがわかる。それは当然していかなきゃいけなくて。今、組織の見直しはできれば2年をかけて考えさせていただいて、2年後という話をしています。

それは、就任した直後に、短時間でするのは、ちょっと難しい。十分に皆さんの声を聞きながら、課の名前も含めてどういうものが一番いいのか。今日は出ていないんですが、課の名前が長くてよくわからないというのは、実はたくさんでています。2年待ってくださいと言うと、最初の頃は、まあ2年かと言われていて、最近は2年もかと言われ出すので、組織の再編も2年より1年かなど。ちょっといろいろ思うんですが、皆さんの期待からすると、もう少しスピード感を持って、組織を変えて、名前も変えないといけないなと思いつつあります。

その辺で、少し形は違いますが、地域の方の応援ができればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

大賀総務課長 はい、ありがとうございます。たくさん意見やご質問をいただきました。最初をお願いしましたように、終了予定を8時としておりました。間もなく8時となりますので、このあたりで閉会とさせていただきたいですので、閉会にあたりまして白須副町長からごあいさつをお願いします。

3. 副町長あいさつ

今日は長時間にわたりまして、ありがとうございます。他の会場と違うのは、すごく近くて、町長も心のありのままを今日はいろいろしゃべられたところもありました。

非常に財政が厳しいという話も冒頭に町長からさせていただきました。ちょうど今、予算編成をしています。例年、新年度の予算編成をするときに、町長から来年度は、こういったことを重点項目で予算編成をしようという方針を示されるんで

すが、令和7年度につきましては、財政再建そのものが予算編成の基本方針となっております。

今日は、町長査定の段階でございますが、各課でいろいろな見直しをしております。新年度になりますと、少なからず、皆さんの生活や事業活動に影響があるところがあると思いますが、そこはしっかりと職員から、こういった理由でこういったところを見直すという説明をさせていただきたいと思います。その際にはしっかりとご意見を頂戴したいと思います。ご意見をその次の年の予算編成に生かして参りたいと考えております。

それから、中長期的に見ましても、小中学校の在り方とか、地域コミュニティの再編などを進めております。こういったことにつきましても、皆さんと情報をしっかりと共有して、協働の立場で一緒に取り組んで参りたいと思いますので、いろいろな意味でご理解とご協力をいただければと思います。

本日は、天候の悪い中、こうして遅くまでいろいろご意見、ご質問をいただきましてありがとうございました。お帰り際には、くれぐれも事故のないように気をつけてお帰り頂きたいと思います。簡単ではございますが、閉会にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。本日は、ありがとうございました。

大賀総務課長 以上をもちまして、閉会とさせていただきます。気を付けてお帰りください。ありがとうございました。